毎月5日と20日は
無火災推進日です

松ヶ崎消防報

平成 24 年 1 月 9 日
左京消防団松ヶ崎分団
分団長　藤井　照夫

新年あけましておめでとうございます。

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては素晴らしい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、日ごろから、松ヶ崎消防分団へのご理解とご支援、誠にありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

ご存知の方もおられると思いますが、京都市消防団では　毎月 5 日と 20 日を無火災推進日と定めており、当分団でも　5 日と 20 日の夜 8:00 ～ 10:00 まで　松ヶ崎小学校の南に隣接する「松ヶ崎消防分団の詰所」にて地域への防火広報活動を実施しております。また、春、秋、年末の火災予防運動、年末特別警戒、小型動力ポンプ操法訓練など年間を通じた活動をしております。私も参加したいと思われる方は、無火災推進日当日にお気軽に詰所にお越しください。

さて、昨年の東日本大震災、台風 12 号豪雨による甚大な被害が広範囲で発生しました。多くの地域が壊滅状態になる中で地域が結束して大きな困難を乗り切ったところがあったり、普段は全くメディアには取り上げられない善良な多くの人たちが支援に向けて立ち上がりました。他人のために自分にできることを実行する多くの姿をテレビなどの映像で見ました。その姿は、尊いと思いました。恐らく多くの人を勇気付けたり救ったり、感動を与えたものと思っています。支援された多くの方々は、恐らく「常に人にやさしく接する日常の心構え」を持っておられると思います。松ヶ崎消防分団においても、この心構えで地域の信頼に応える組織を目指したいと考えております。

最後になりますが、昨年の火災状況は、京都市内では 194 件（12 月 4 日現在：前年比＋ 39 件）と大幅に増加しました。左京区内では 1 件減少し 19 件です。死亡者数は 2 名で－ 1 名と減少しています。火災件数がほとんど変わらないにもかかわらず死亡者数が減少しています。これは、住宅用火災警報機によって火災を早く認識して避難行動をとれたことが要因として大きいと報告されています。京都市消防局は防火と同時に早く避難する（命を守る）ため、住宅用火災警報器の取り付けを現在も推進しております。皆様におかれましても、命を守るため住宅用火災警報器の設置をお願いします。

左京消防団　松ヶ崎分団長　　藤井　照夫

地域のために活躍する消防分団をよろしく

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

皆様方におかれましては、ご家族お揃いで、輝かしい新年を迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。

さて、この度の東日本大震災では、多くの消防団員が犠牲になりました。高齢化の進展や地域のコミュニティが薄れる中、いまや消防団は地域の防災に欠かせない存在です。紀伊半島を中心に大きな被害をだした台風１２号の被災地でも、消防団は土砂崩れの危険箇所の警戒をしたり、住民への避難の呼びかけをしたり、行方不明者の捜索にもあたっています。

消防団員は普段は会社員だったり、各種自営業などの仕事をもっている人が、火事が起きたり、地震や水害などが発生した際には、仕事を中断して、すぐに現場に駆けつけて防火や防災活動にあたります。非常勤の特別職地方公務員として位置付けられていますが、報酬は一般の団員の全国平均で、１年間におよそ２万５０００円、一回の出動手当が３３００円ほどですから、生半可な気持ちでは続けられないボランティア精神に支えられた仕事です。

《消防団と地域の防災》

消防団というと火災の予防・消火や防災活動のイメージが強くありますが、最近の消防団の活動状況をみると、住宅火災や山火事の消火、火災予防や防災の指導、地震などの際の特別警戒や避難誘導、風水害の時の土のう積み、それに施設などから行方不明になった高齢者の捜索といった様々な現場に出かけて、今や地域の様々な活動でなくてはならない存在です。

かつて地域には、青年団や婦人会などがあって活発に活動していましたが、農業の後継者が減ったり、小さな商店がなくなるなど産業構造が変化したり、高齢化の進展などの影響で、多くの住民組織が弱体化し、今やいざという時に集団で活動できる組織は消防団しかないという声をよく聞きます。したがって、日頃から地域ぐるみの対策、つまりは地域のコミュニティの力、地域の防災力を高めることが重要なのです。一人では避難できない高齢者などについて、消防団を交えて話し合って避難態勢を整備し、訓練を繰り返しておくとともに、助けがなくても避難できる人は危険が迫ったら、自ら進んで避難することを確認しあっておくことが重要です。

今後とも自治連合会、松ヶ崎自主防災連合会をはじめ、各種団体と協力し合い、松ヶ崎消防分団を先頭に地域が一体となって、安全・安心の為の活動を展開してまいりますので、重ねて学区の皆様方のご支援ご協力の程、よろしくお願いします。

松ヶ崎消防分団後援会　会長　　三宅　照男

消火器や火災警報機を備えましょう。ご相談ご購入は最寄りの分団員まで

左京消防団松ヶ崎分団員　二六名

分団長	藤井　照夫　御所ノ内町
副分団長	小柳　憲治　六ノ坪町
〃	北川　憲一　壱町田町（自主防災担当）
〃	芝山　宗昭　東　町（自主防災担当）
〃	佐橋　学　海尻町
部長	西郡　藤夫　小脇町（自主防災担当）
〃	河村　栄二　三反長町
〃	蒔田　桂三　正田町
〃	宇佐美賢一　海尻町
〃	樋口　晶弘　海尻町
班長	三宅　勝　東町
〃	山田　徹　中町
〃	梅津　康正　井出ヶ海道町
〃	京極　康生　三反長町
〃	三宅　祥文　海尻町
団員	岡田　亨　御所ノ内町
〃	木村　宏章　芝本町
〃	梶　広宣　中町
〃	高　靖敏　樋ノ上町
〃	半井　達弥　今海道町
〃	島内　研　三反長町
〃	永原　照士　正田町
〃	山田　勉　井出ヶ鼻町
〃	今西　健介　井出ヶ海道町
〃	竹内　俊隆　海尻町
〃	矢野　博敏　井出ヶ海道町

団員の異動・退団

佐々木　康、北川健志、上田尚玄

※長い間、ご苦労様でした。（敬称略）

災害に強いまちづくり

平成 24 年の輝かしい新春を迎え，松ヶ崎学区の皆様に、謹んでお慶びを申し上げます。

さて、左京消防署では，左京区民の皆様の安心・安全を念頭に「住宅用火災警報器の全世帯へ設置」，「高齢者等の防火安全指導の充実」，「市民等に対する救命講習等の実施」，「訓練等を通じた市民防災行動計画の検証及び内容の充実」，「消防団の充実強化及び消防団員の確保」などを最重点事業として位置づけ，業務に取り組んでいるところです。

昨年は，わが国観測史上最大となるマグニチュード９．０を記録し，未曾有の被害をもたらした東日本大震災をはじめ，集中豪雨による風水害や土砂災害，ゲリラ豪雨による都市型災害などの自然災害が頻発しましたが，そのような災害が発生するたびにクローズアップされているのが「地域の防災力」であります。

「災害に強いまち」の原点は，「強固な人づくりと組織づくり」であります。

その実現は，行政の力のみでは決してなしえるものではなく，消防団はもとより，自主防災会や地域の皆様の知恵と力を結集すれば，より一層ゆるぎない防災力を築くことができると確信しています。

左京消防署においても，区民の皆様との「絆」をより一層強め，皆様と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」と，あらゆる災害現場に的確,果敢に立ち向かう「力強い消防」により,誰もが「災害に強く安心して住み続けられる『左京区』」を実感することができるよう，総力を挙げて，まい進して取り組んで参りますので，引き続き，皆様のご理解とご協力を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

結びに、皆様と御家族がともに健康で、充実した一年を過ごされることを心からお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

左京消防署長　　西川　幸夫

フレッシュマン紹介

今西謙介

平成２３年６月に左京区松ヶ崎消防団に入団した新人団員の今西謙介です。学生時代にラグビーで鍛えたタフな体と根性で風光明媚な松ヶ崎の消防と防災に尽力していきます。私がいざという時の消防活動の為にしている体作りとしては、春は新緑を求めた松ヶ崎東山の山登り、初夏は高野川でのホタルを見るための散歩、夏はカブトムシ・クワガタを採りに山登り、秋は野鳥観賞として宝が池を散歩、冬は鹿を探しに山登りをしています。松ヶ崎の荘厳な街並みと妙法の山を中心とした自然を守り、地域と密着した消防団活動を目標として日々精進していきます。また、松ヶ崎の伝統行事を安全かつ盛大にする為の活動、地域の皆様の役に立てるように頑張ります。

竹内俊隆

海尻町に住まいしております新入団員の竹内俊隆（たけうちとしたか）でございます。

この地松ヶ崎に生まれ、育ちましたので郷土愛は、人一倍持ち合わせているつもりでおります。また地元でお商売をせさせて頂きております関係上、地域の方々との深いつながりを大事にしたいと思っております。消防団活動を通じ皆さんと仲良く、そして支え合うことの重要性を共有できましたら幸いです。普段見過ごしている様な事や再認識して頂く一助になればいいなと思います。どうぞよろしくお願いします。

矢野博敏

2011 年１０月１日に松ヶ崎消防分団に入団致しました。

大阪より松ヶ崎へ引っ越してきましたのが約半年前で、この度の入団で団員の皆様方とお知り合いになれました事を、大変うれしく思っています。

私は民間の会社で４０年サラリーマンをやってまいりましたので、地域の方々とのお付き合いも、地域の活動も全く初めてで、この度の入団で新鮮に感じるところも多々あります。皆様のご指導を宜しくお願い致します。

京都市の中にあって、自然環境に恵まれ伝統文化を大切にされている松ヶ崎地区の中で、地域防災等の消防団の果たされている役割の重要さを大変感じますと同時に、これから色々勉強していきたいと思っております。

私自身は還暦を過ぎまして、体力の衰えもいくらかは来ていますが、日々の体調管理を十分に行って、無火災推進日の夜間巡回等今後の消防団活動を確実に行えるよう努力していきたいと思っています。

今後とも宜しくお願いいたします。

このような取り組みもしています。

松ヶ崎消防分団では、2011 年９月に消防水利の保全もかねて地域の方々と泉川の清掃活動を実施しました。

2011 年 11 月の子供フェスティバル（少年補導委員会主催）ではＡＥＤによる応急手当をテーマとして紙芝居「こんなときどうする」を子ども達に上演し、また消防服を着た子供たちの写真を缶バッチにしてプレゼントをするなど防火・救命救急の普及活動を行いました。

また、春と秋には街頭で防火啓発運動も実施しました。

もうつけましたか？

※調理中の煙や湯気により、容易に作動する場合、煙感知式に替えて熱感知式を設置することが出来ます。